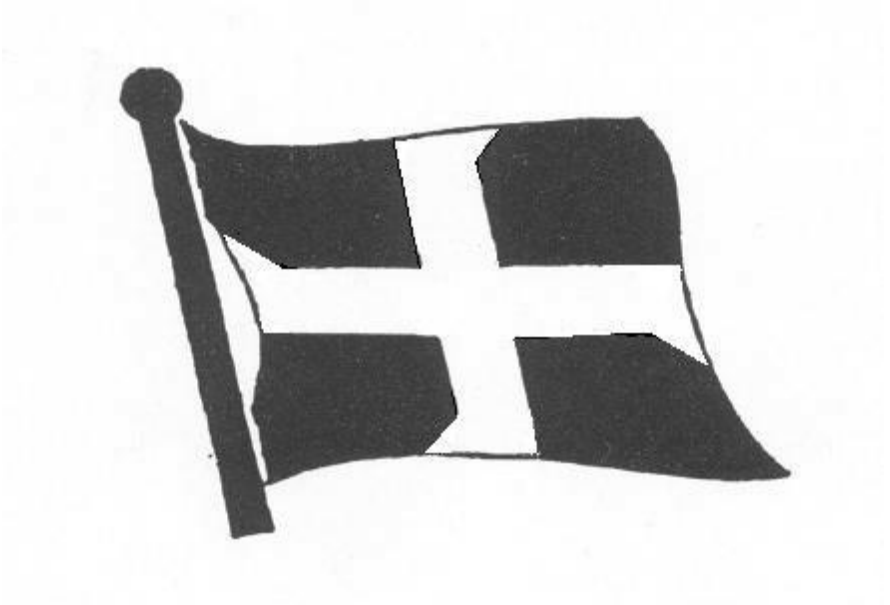
蒼穹 NEWS

No.2

関カレ総括号

令和 7(2025)年 5 月 15 日発行



－目次－

①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
②関西インカレ結果
③関西インカレ各競技総括
④その他ご報告

①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

《主将挨拶》

先日行われました関西インカレにて、男子は 67 点で総合 7 位となり 12 年連続の 1 部残留、女子は 10 点を獲得し、男女総合 77 点という結果を収めました。昨年から目標として掲げていた「男女総合 60 点」「男子 1 部残留」「女子 4 種目入賞」のうち、前 2 つは達成できましたが、女子は 2 種目入賞となり、完全目標達成とならなかったことはとても悔しく思います。

目標達成とはなりませんでしたが、総じて良い対校戦だったと本当に思います。男子 10000mW では原(M2)が圧巻の関西学生新記録で優勝、男子走高跳では山中(M1)が 4 連覇、田中(4)が自己新で 2 位入賞、髙田(M1)が 100m、200m での入賞、800m では阿部(3)、杉原(4)がそれぞれ 5 位、6 位入賞、3000mSC では小野(2)が下回生ながら 2 位入賞、4×100mR ではエース高橋(4)が不在となりながら 6 位入賞と素晴らしい活躍をしてくれました。また、女子についても、やり投で篠田(M1)が 4 連覇、10000mW で田口(2)が 7 位入賞、ラストイヤーとなる三好(M2)と復活のエース有村(3)を有する 4×100mR では京大新となる 46 秒台に到達し、強豪が多くひしめき合う関西の決勝進出まであと一歩の快走をしてくれました。ここに書かれた競技以外でも、果敢に関西の舞台で懸命に前の選手に食らいついていく姿、攻めた試合展開をし、少しでも上を目指し続ける姿が多く見られました。

また、スローガンとして掲げていた「ゼンシン」という言葉の通り、今回くしくも出場できなかった選手たちも、応援サポートに全力で取り組み、全員で選手が少しでも前へ進む力を与えるチームとしてこの 5 日間戦うことが出来たことは、このチームの主将として誇りに思います。

関西インカレは関西最高峰の戦いといっても過言ではなく、その舞台で京大が戦い続けることは容易ではありません。ですが、これまで京大陸上部の先輩方が築き上げてきた土台をしっかりと引き継いでいくことで、スポーツ推薦などがない国立大学でも強豪私立相手に戦うことが出来ると思います。チームとして来年度以降の関西インカレを戦っていくうえで、今年の関西インカレでの経験をもとに戦い続けてほしいと強く思います。

これからチームとしては、伊勢予選、七大戦、東大戦と対校戦が続いていきます。関西インカレでの躍進の勢いを保ち、これらの大会でも目標達成に向けて一層気を引き締めて臨んでまいります。

最後になりましたが、大会期間中、遠方にも関わらず多くの蒼穹会の方々から応援を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご声援を何卒よろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将　松井　和輝

《女子主将挨拶》

関西インカレにおいて目標の「男女総合 60 点、男子 1 部残留、女子 4 種目入賞」という目標に対し、「男女総合77点、男子 1 部残留、女子2種目入賞」という結果になり、目標達成することができませんでした。

目標達成まで非常に惜しいところまで来ましたが、最終的に今回掲げてきた目標を達成できなかったことはチームの結果として全員がしっかりと受け止めていく必要があります。それと同時すべてが悪かったわけではなく、競技応援サポートにおいてよかった点が多かったということも全員が認識していけたらと思います。皆が考え、それぞれの立場からやれることをやりました。このことは対校戦をチームとして戦ううえで当たり前のことかもしれませんが、そのレベルは確実に上がっていて、チームとして強くなっていることを確信しています。

これからまだまだ対校戦が続いていきます。個人としてもチームとしてもまだまだ強くなれます。さらに力をつけて、次の目標に向かって全員で進んでいきます。

最後になりましたが、応援してくださった蒼穹会の皆様にはたくさん力をいただきました。誠にありがとうございました。ここからまだ対校戦が続きますが、引き続きご支援やご声援をよろしくお願いします。

京都大学陸上競技部女子主将　平松　藍

《監督挨拶》

5/4（日）から 5/7（水）にかけて、関西インカレが開催されました。我々は男女総合 77 点を獲得し、男子は一部残留を達成することができました。当日会場まで応援に駆けつけていただいた皆様、また配信等でご観戦いただいた皆様、日頃よりのご支援も併せて感謝申し上げます。

男子は残留を目標としておりました。初日2日目とエース高橋（4）の怪我や走幅跳で大きく点を落とすなど、一時降格が危ぶまれることもありましたが、3日目朝の競歩における原（M2）が関西学生新の圧勝劇から流れを取り戻し、終わってみれば 67 点を獲得とここ十年での最高得点を獲得しました。今大会では四継での 6 位、高田（M1）の 200m3 位、800m の阿部（3）杉原（4）のダブル入賞、競歩の原（M2）・中村（3）・土田（3）、走高跳の山中（M1）・田中（4）・山口（3）のトリプル入賞、3000mSC 小野（2）の 2 位と、多くの選手が入賞し、エースに頼らず安定して結果を残せる中堅校への成長を感じることができました。

女子は4種目入賞を目標としていましたがやり投で優勝した篠田（M1）と京大新の躍進をみせた競歩田口（2）の 2 種目入賞に留まりました。一方で全カレ標準を突破した四継や 100m と 200m の有村（3）・三好（M2）、砲丸投の篠田（M1）が一歩及ばずといった結果で、関西のトップに肉薄する姿も多くみられ、近年取り組んできた女子選手の競技力の向上が結実してきたように思えた試合でありました。

さて、チームとして、次は 6/1(日)に行われます伊勢予選、そして七大戦へと向かっていきます。一丸となって「ゼンシン」し、またいい結果が報告できますよう精進してまいります。蒼穹会の皆様におかれましても、より一層のご注目いただきますようお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督　島村　夏惟

② 関西インカレ結果

第102 回関西学生陸上競技対校選手権大会

（ロードの部）2025 年 4 月 4 日・於ヤンマーフィールド長居付設長距離走路（長居公園周回コース）

（T&F の部）2025 年5月 4 日－7 日（日－水）・於ヤンマースタジアム長居・ヤンマーフィールド長居

1．男子1部総合得点

順位	大学	得点
1	関西大	136
2	立命館大	113.5
3	京都産業大	94
4	関西学院大	89
5	大阪体育大	74.83
6	大阪教育大	69.33
7	京都大	67
8	同志社大	61.33
9	びわスポ大	44
10	天理大	43
11	近畿大	27
12	摂南大	21

2．男子1部トラックの部得点

順位	大学	得点
1	関西大	95
2	立命館大	84
3	関西学院大	68
5	京都大	47

3．男子1部フィールドの部得点

順位	大学	得点
1	大阪体育大	53.83
2	天理大	39
3	びわスポ大	34
9	京都大	18

4．男子1部混成の部得点

順位	大学	得点
1	大阪教育大	15
2	大阪体育大	12
3	立命館大	6

5．男子1部ロードの部得点

順位	大学	得点
1	関西大	8
1	摂南大	8
3	京都産業大学	6
7	京都大	2

6. 男子２部総合得点

順位	大学	得点
1	龍谷大	124
2	大阪大	121
3	神戸大	118

7. 男子２部トラックの部得点

順位	大学	得点
1	龍谷大	89
2	神戸大	81
3	大阪大	76

8. 男子２部フィールドの部得点

順位	大学	得点
1	明治国医大	67
2	神戸大	31
3	関西福祉大	30

9. 男子2部混成の部得点

順位	大学	得点
1	大阪大	15
2	神戸大	6

10. 男子２部ロードの部得点

順位	大学	得点
1	龍谷大	14
2	関西福祉大	11
3	大阪公立大	5

11. 女子総合得点

順位	大学	得点
1	立命館大	149.5
2	園田学園大	121
3	甲南大	63.5
18	京都大	10
31	京都女子大	0

12. 女子トラックの部得点

順位	大学	得点
1	立命館大	125
2	園田学園大	63
3	甲南大	58
21	京都大	2
25	京都女子大	0

13. 女子フィールドの部得点

順位	大学	得点
1	大阪体育大	45
2	園田学園大	41
3	大阪教育大	32
12	京都大	8
20	京都女子大	0

14. 女子混成の部得点

順位	大学	得点
1	園田学園大	17
2	武庫川女子大	14
3	東大阪大	4

③ 関西インカレ各競技総括

第102 回関西学生陸上競技対校選手権大会
（ロードの部）2025 年4月 4 日・於ヤンマーフィールド長居付設長距離走路（長居公園周回コース）
（T&F の部）2025 年5月 4 日－7 日（日－水）・於ヤンマースタジアム長居・ヤンマーフィールド長居

～短距離（短短）～

男子 100m

予選（4 組3着＋4）
2 組 高橋昂生（4）　4 着 10”73（-2.0）q
3 組 石原一真（4）　7 着 10”81（+0.2）
4 組 髙田雄平（M1）2 着 10”68（-0.4）Q

男子 100m 予選には、高橋（4）、石原（4）、髙田（M1）が出場した。

髙田は予選で 10.68 秒を記録。スタートでやや出遅れたものの、中盤以降での伸びが非常に良く、持ち前の加速力とトップスピードを発揮して 1 着でフィニッシュした。

高橋は、怪我の影響で本来の力を発揮しきれなかったものの、それでも最後まで諦めずに戦い抜く姿勢は、周囲に強い影響を与えた。今後の回復と復調に期待がかかる。

石原は惜しくも予選敗退となったが、大舞台での経験は、間違いなく今後の成長につながるはず。課題を明確にし、次のステップへの準備を着実に進めてくれることを期待する。（浦田）

準決勝（2 組 3 着+2）
1 組 髙田雄平（M1）　4 着 10”59（+0.3）q
2 組 高橋昂生（4）　6 着 10”64（+1.1）

男子 100m準決勝には、髙田（M1）、高橋（4）が出場した。

髙田は準決勝では10.59秒とタイムを大幅に更新。非常にハイレベルな組に入ったが、前半ライバル達に先行されるも、後半力まずにしっかりと加速区間を作る走りができていた。結果としてタイムで決勝進出を果たし、技術的にもレース運びでも今大会での進化を強く印象づけた。

高橋は最初、他の選手と並びながらスタートしたものの、後半で伸びが足りずに準決勝敗退となった。（浦田）

決勝
髙田雄平（M1）　8 着 10”67（+0.6）

男子 100m 決勝には、髙田（M1）が出場した。

髙田は８位入賞という結果を残し、ハイレベルな戦いの中でも地力の高さを示してくれた。決勝進出と得点獲得は、今後のチームの士気にもつながる大きな成果となった。（浦田）

３種目入賞で力を示した髙田（M1）

男子 200m

予選(4 組 3 着+4)
1 組 中川雄稀(3)　5 着 22”01(+2.2)
3 組 髙田雄平(4)　3 着 21”80(+1.9) Q
4 組 髙橋昂生(4)　DNS

男子 200m 予選には、中川(3)、髙田(M1)が出場した。
髙橋(4)は怪我のため棄権した。
中川(3)は、前半から果敢に飛ばして走り、格上相手に並びながらカーブを抜けた。しかし、後半は耐え切ることができず、組 5 着となった。PB 付近のタイムでまとめたものの、準決勝進出まで 0.04 秒届かず悔しい結果となった。
髙田(M1)は、脚や腰に不安を抱えての出走となった。カーブをリラックスして走り、ストレートに入ると 4 番手以降を引き離した。最後は流しながら組 3 着となり、着順により準決勝進出を決めた。(川瀬)

準決勝(2 組 3 着+2)
2 組 髙田雄平(M1) 1 着 20”87(+5.0) Q

男子 200m 準決勝には、髙田(M1)が出場した。
カーブ終盤で内側の選手に一度は捉えられたものの、冷静に自分のペースを保った。ストレートに入ってからは、強烈な追い風に乗りぐんぐん伸びていった。最後は内側の様子を見ながら、軽く流してゴールした。安定感ある頼もしい走りで組 1 着となり、決勝進出を決めた。(川瀬)

決勝
髙田雄平(M1)　3 着 21”22(+0.4)

男子 200m 決勝には、髙田(M1)が出場した。
前半からやや飛ばしたが、ここで思いの外体力を使ってしまった。ストレートに入る際に、京産の田中(4)や関大の山田(4)が横目に見えたことで、力みに繋がった。その結果、後半は思うように伸びず 3 位となった。優勝が射程圏内にあったため、悔しさが残る結果となった。しかしながら、4 日間で計 8 本ものレースを走り切るタフさ、100m、200m、4 継の 3 種目で入賞し大量に得点を獲得した確かな実力を関西に知らしめた。(川瀬)

男子 4×100mR

予選(2 組 3 着+2)
1 組
折橋(2)-髙田(M1)-林(3)-石原(4)
4着 40”25 q

男子 1 部 4×100mR 予選では折橋(2)-髙田(M1)-林(3)-石原(4)が出場した。1 走の折橋は好調な出だしでのびのびとした走りで周りの選手に食らいついた。2 走の髙田はバトンを受けてからさすがの加速で外レーンの選手との距離を詰めた。3 走の林はバトンパスでやや出遅れて詰まりながらもしっかりバトンを受けとった。力強い走りで前を追いかけてスムーズなバトンパスへと繋げた。4 走の石原は最後まで粘り強い走りを見せて順位をキープしてゴールした。全カレ標準まであとわずかな記録であり悔しさが残る結果となったが、しっかりと決勝へ駒を進めた。(川崎)

決勝
折橋(2)-髙田(M1)-林(3)-石原(4)
6 着 40”36

男子 1 部 4×100mR 決勝では予選と同じく折橋(2)-髙田(M1)-林(3)-石原(4)が出場した。1 走の折橋は予選と同様に好調なスタートを決め出遅れることなく 2 走にバトンをつないだ。2 走の髙田はインレーンからぐんぐん追い上げてスムーズなバトンパスにつなげた。3 走の林は予選からバトンパスを修正してスピードにのってカーブを走り切った。4 走の石原

は粘り強く競い続けラスト大教大に離されはしたものの順位をキープして 6 着でゴールした。全カレ標準には惜しくも届かなかった。しかし事前ランキングでは得点を持っていなかったところから 3 点をつかみ取り、チーム目標に大きく貢献する結果となった。(川崎)

女子 100m

予選(7 組 3 着+3)
1 組 三好紗椰(M2) 4 着 12”39(+0.2)
3 組 有村実寿々(3) 1 着 12”06(-0.7) Q 京大新
5 組 中野直子(M1) 6 着 12”61(+1.7)

女子 100m 予選には三好(M2) 有村(3)、中野(M1)が出場した。
三好はスタートでやや出遅れるも後半伸びのある走りを見せ、前を走る選手との距離を縮めながら 4 着でゴール。自己ベストタイを記録した。
有村は得意のスタートで先頭に立ちそのまま逃げ切り 1 着でゴール。自身の持つ京大記録 12”14 を更新した。
中野は力みからか少しスピードに乗り切れず 6 着でゴール。目標としていた自己ベスト更新はならなかった。(山本)

準決勝(3 組 2 着+2)
2 組 有村実寿々(3) 4 着 12”15(-0.4)

女子 100m 準決勝には有村(3)が出場した。このレースでも得意のスタートが光り序盤は先頭に立ったが、後半の減速が少し大きくなってしまい 4 着でゴール。惜しくも決勝進出はならなかった。(山本)

京大新を更新し続ける有村(3)

女子 200m

予選(6 組 3 着+6)
2 組 三好紗椰(M2) 3 着 25”63(+1.2)Q
3 組 有村実寿々(3) 2 着25”41(+1.1) Q
4 組 藤本佳千(京女3) 8 着 26”45(+1.8)
5 組 齋藤虹香(4) 7 着 26”03(+2.6)

女子 200m 予選には三好(M2)、有村(3)、藤本(京女 3)、齋藤 (4)が出場した。
三好は今回が最後の関西インカレとなったが、経験値を活かした不安を感じさせない落ち着いた走りで無事準決勝に進んだ。
有村は得意のスタートで大きく飛び出し、1 人にはさされたが力まずスピードを維持して無事 2 着で準決勝に進んだ。
藤本は 8 着ではあったものの追い風にも恵まれ、前半から突っ込んだが後半もストライドのある走りを崩さず PB を更新した。
齋藤は前半を抑え後半を伸ばす意識で走ったが、後半伸びきらず準決勝進出とはならなかった。先日 100m の PB を更新したばかりなので 200m も今後の進化に期待したい。(岡田)

準決勝(3 組 2 着＋2)
2 組 三好紗椰(M2) 5 着 25”71(-0.4)
3 組 有村実寿々(3) 6着25”83(-2.5)

両者ともに 100m、リレー、200 予選と短期間にレースが続き少し疲労が感じられた。

三好は前半は大きく乗り込み上手く加速したもののカーブ抜け後の向かい風によって失速してしまい後半の伸びが出せなかった。

有村は向かい風が酷く後半のストレートで失速してしまい、決勝進出とはならなかった。まだ復帰して間もないのでこのまま怪我なく練習を積み来年の関カレ決勝進出に期待したい。(岡田)

女子 4×100mR

予選(3組2着＋2)
1 組
中野(M1)-有村(3)-齋藤(4)-三好(M2)
3着 46”98　京大新

女子 4×100mR 予選では中野(M1)-有村(3)-齋藤(4)-三好(M2)が出場した。1 走の中野は順調にスピードに乗り安定感のある走りを見せた。2 走の有村は勢いよく加速してバトンを受け取り前方の選手との差を縮めてバトンを繋いだ。3 走の齋藤はスムーズな走り出しで外側の選手を追い抜き勢いそのままコーナーを駆け抜けバトンパスをした。4 走の三好は貫禄を感じさせる力強い走りでトップスピードのままゴールへバトンを運んだ。惜しくも決勝には届かなかったものの、今回の記録は京大新記録であり、全日本インカレの標準記録を突破した。今後の活躍に期待が持てる競技結果であった。(瀬戸)

念願の全カレ標準を突破した女子 4 継

～短距離(短長)～

男子 400m

予選(3組2着＋2)
2 組　岩本翔太(5)　6 着48“80

　男子 400m 予選には、岩本(5)が出場した。
2 レーンからスタートし外側に山田(関学)、谷野(関大)、壇上(立命館大)といった関西トップの選手たちを見る形でレースは進み、事前の宣言通りに前半200mを自身としては最も速い22秒8で通過した。4 コーナー出口あたりから苦しさが見えたがしっかりと走り切り SB、セカンドベストの 48 秒 80 でゴールした。上位 4 人は 46 秒台という超ハイレベルなレースで走った経験を糧として、まずは PB そして 47 秒台に到達し短長パートの殻を破る存在となることを大いに期待している。(青柳)

男子4×400mR

予選(2組3着＋2)
2組
岩本(5)-中川(3)-川村(3)-青柳(4)
5着3’13”55

　男子 4×400mR 予選には岩本(5)、中川(3)、川村(3)、青柳(4)が出場した。
　1 走の岩本は最初から果敢に飛び出し、前半から先頭争いに加わる積極的な走りを見せた。第 3 コーナー以降も粘りを見せ、上位で中川にバトンを繋いだ。
　中川はスムーズに加速し、バックストレートで前との差を詰めていった。第 4 コーナーではやや苦しさを見せたものの、集中力を切らさず粘走し、川村へとバトンを繋いだ。
　3 走の川村は序盤からリズムよく刻み、終盤もフォームを崩すことなく安定した走りで青柳にバトンを託した。
　アンカーの青柳は鋭い立ち上がりから立命館や天理大を追う展開となった。最後の直線では力強いスパートを見せ、わずかに届かなかったものの、各校と競り合う白熱したレースを演じた。全体として安定感のある走りで、記録としても健闘が光る内容となった。(早田)

女子4×400mR

予選(3組2着＋2)
3組
齋藤(4)-小倉(4)-平岡(M1)-中野(M1)
4 着4’02”06

　女子 4×400mR 予選には齋藤(4)、小倉(4)、平岡(M1)、中野(M1)が出場した。
　斎藤は持ち前のスピードを生かし、前半果敢に前をいくチームに食らいつき、後半も粘りいい位置でバトンを繋いだ。
　小倉は 800m 予選の影響か序盤前を行く選手に離されたところはあったものの、中距離選手らしく、後半もペースを落とすことなく走りきり、バトンを繋いだ。
　平岡は 1 日目からの連戦の影響もあってか前との差を詰めることはできなかったが、大崩れすることなくバトンを繋いだ。
　中野は序盤からスピードに乗り、前の選手を捉えると後半もペースを落とすことなく 4 着でゴールした。4’02”06 と歴代でも屈指のタイムではあったが予選突破ならず、関西のレベルの高さを改めて痛感させられる結果となった。(服部)

～ハードル～

男子 400mH

予選(3 組 2 着+2)
1 組　柳町悠斗(2) 5 着 54”46
2 組　青柳佑(3)　 DNS
3 組　高橋昂生(3) DNS

男子 400mH 予選には柳町(2)が出場した。高橋(4)は前日の走幅跳でハムを痛めたため、青柳(4)は足の不調によりマイルリレーに専念するため棄権した。

柳町は京都インカレ後から続いていたハムの痛みに苦しみながらも、関西インカレに向けて調子を上げ、PB 更新が狙える水準まで状態を回復しての出場となった。レースでは、2 台目・3 台目で初挑戦となる 14 歩を綺麗に成功させ、前半は軽快なリズムでスピードに乗る。しかし、7 台目で 16 歩を使用した後の歩数管理を失敗し、8 台目で 17 歩になってしまう。その結果、7 台目以降は逆足でハードルを跳び続けるという苦しい展開になり、後半の減速が響いて徐々に前との差が開き 5 着でゴールした。前半から積極的なレース運びをした柳町であったが、PB の大幅更新を目標としていただけに悔しい結果となった。(金盛)

女子100mH

予選(4組3着＋4)
4 組　平岡雪乃(M1)　3着14”98(-2.0)　Q

女子 100mH には平岡(M1)が出場した。

全カレ標準切りかつ決勝進出を目標にレース前から集中した様子だった。号砲が鳴ると安定した走りで 3 着に入り、準決勝に進んだ(池上)

準決勝(2組4着)
1 組　平岡雪乃(M1)　8着 14”90(-1.1)

女子 100mH 準決勝には平岡(M1)が出場した。

決勝進出するために、予選からタイムを上げる必要がある中で攻めたハードルを見せたが、前半で少しバランスを崩し 8 着に終わった。(池上)

～中距離～

男子 800m

予選(3組2着＋2)
1 組　杉原一冴(4)　2 着 1’57”22 Q
2 組　阿部陽葵(3)　3 着 1’52”47 q
3 組　平山悦章(M1)　7着 1’57”96

男子 800m 予選 1 組には杉原(4)が出場した。杉原は後方に位置取ってレースをスタートし、序盤に力を溜めることができた。最終コーナーでポケットされ不利な展開になったが、最後は差し切り貫禄の走りを見せて 2 着でゴールし決勝に駒を進めた。

男子 800m 予選 2 組には阿部(3)が出場した。1 組がスローだったのに対して 2 組目は関西大の萬野を先頭にハイペースなレースが展開され、阿部は集団前方の位置でレースを進めた。
2 周目で前と少し距離が空くも落ち着いて走り、得意のラストスパートで一気に順位を上げて 3 着でゴールした。

男子 800m 予選 3 組には平山(M1)が出場した。平山は序盤から積極的にレースを展開し、集団の外側で先頭を虎視眈々と狙った。2 周目に入り前へ出て勝負に出て先頭の背中を追うも、後方の選手に追い上げられて7着でゴールした。決勝進出だけを考えたレース展開であり、選手としての意地とプライドを見せたレースだった。

男子 1500m と同様に 2 名が決勝進出を果たし、中距離パートだけでなく陸上部全体を勢いづけるタマシイの走りだった。(大西)

決勝
阿部陽葵(3) 5 着 1’51”95
杉原一冴(4) 6 着 1’51”99

男子 800m 決勝には杉原(4)と阿部(3)が出場した。

レースは序盤から関西大学 2 回生萬野がハイペースでレースを進め、京大勢 2 人は最後方から追いかける形となった。400m を 54 秒台で通過し、600m ごろから阿部はポジションを上げ、最終コーナーとなる。メインストレートの順位争いでは前田・森玉・萬野を追いきれず阿部 5 着、杉原 6 着となった。両人共に力をよく出し尽くした良いレースであったと思う。(佐向)

ランキングを返しチームに貢献した男子 800m(左から杉原(4)、阿部(3))

男子 1500m

予選(2 組 5 着+5)
1 組 柴折心汰(3) 7 着 4’01”62 q
1 組 奥村究(4) 11 着 4’09”97
2 組 田中洋佑(2) 8 着 4’00”59 q

男子 1500m は予選 1 組に柴折(3)、奥村(4)が 2 組に田中(2)が出場した。資格記録上では上 8 番までが 3’50 を切っている一方、予選通過ラインとなる 15 番目の記録は 3’56 と少し間が空いており上位層が予選からレースをつくることも予想されたが、結局は様子を窺うかたちでレースはスローペースで展開されることとなった。

1 組目は 400m を 66、800m を 2’14 で通過後 1000m 手前から徐々にペースアップしラスト 1 周から本格的なスパート合戦となる。京大の二選手もこれに反応し最後まで粘り強く走りきったが、柴折が組 7 着、奥村が組 11 着となり決勝進出は 2 組目の結果に委ねられることとなった。

一方、2 組目に登場した田中は 1 組目の結果より予選通過ラインが 4’00 辺りと PB 付近になりそうなこともあり序盤からレースを引っ張る積極性を見せる。集団は田中を先頭にして 400m を 64、800m を 2’09 と 1 組目よりも速いタイムで通過、ラスト 1 周を切ったところから決勝進出を賭けた熾烈なラスト勝負が始まる。しかしここで、田中は後方から上がってきた選手にスパイクで足を踏まれるアクシデントに見舞われてしまう。これによりスパイクは大きく破れ、足の甲も負傷したものの、田中は最後まで諦めることなく走り続け組 8 着でゴールした。

2 組の結果が出揃ったことによりタイムによるプラスで柴折、田中が念願の決勝へと駒を進めることとなった。この結果は事前ランキングを大きく覆すものであり、最後まで最善を尽くし走りきった 2 人の頑張りが報われた。(小笹)

決勝
柴折心汰(3) 14 着 4’06”15
田中洋佑(2) DNS

男子 1500m 決勝には柴折が出場した。田中も決勝へと駒を進めていたものの、前日の予選の際に負

った怪我により今回は無念の DNS となった。レースは 400m を 62、800m を 2’08 で通過。このペースは柴折の実力からすれば難なくついていけるはずだが、前日の疲労もあってか柴折はいつもよりも少し苦しそう様子も見せながら集団後方からレースを進めていく。

そしてレースはまたしてもはラスト 1 周からのスピード勝負となる。柴折も力を振り絞り先頭集団に食らいついていくが、残り 300m を切ったところから少しずつ離されていってしまい最後は 14 着でゴール。1 着はラスト 1 周を 56 秒、8 着の選手でも 60 秒を切って走っており、関西トップレベルの選手には地力の差を見せつけられる形となった。

この悔しさを胸に今回決勝進出した柴折、田中を筆頭に中距離パートは引き続き関西トップの選手と渡り合える日を目指していく。来年はこの舞台でより大きな輝きを放ちたい。（小笹）

女子 800m

予選（5 組 1 着＋3）
2 組　服部颯希（3） DNS
3 組　小倉唯愛（4） 7着 2’24”45
4 組　宮内愛実（1） 7 着 2’28”36

女子 800m 予選には、小倉（4）、宮内（1）が出場した。小倉は 1 周目は集団の後方に位置を取り前を狙った。2 周目は先頭から離されてしまったが、諦めずに懸命に前を追いシーズンベストを記録した。悲願の決勝進出とはならなかったが、このレースを浮上のきっかけとしてほしい。

宮内は序盤から積極的に飛ばし集団の中程に位置取った。受験のブランクもあり後半は失速してしまったが、一回生とは思えない度胸のある走りは今後の活躍、そして来年以降の決勝進出も期待させる素晴らしいものだった。（日野谷）

女子 1500m

予選（3組4着＋3）
1組　濱口姫生（3）　8 着 4’42”04
2組　髙木こころ（2） 12 着 4’49”38

女子 1500m 予選 1 組には、濱口（3）が出場した。先頭に無理についていかず落ち着いてスタートを切った。先頭集団と離れたかと思われたが、ラストスパートで持ち味の大きなストライドが光った。最後の最後までどんどん勢いが増すごぼう抜きを見せ、最終的には組 8 着でゴールした。目標にはわずかに届かなかったものの UB を叩き出し、決勝進出、さらには PB 更新が見える走りだった。

女子 1500m 予選 3 組には、髙木（2）が出場した。直前の体調不良が心配されたが、先頭集団にしっかりついて入った。着順での決勝進出も見え、ペース変化にきちんと対応できる位置取りであった。ラストで離されたものの、攻めた走りであった。コンディションが良くない状態でも諦めず、安定して 4 分 40 秒台を出し底力を見せつけた。PB はお預けとなったが、さらなる飛躍が楽しみである。（西村）

～長距離～

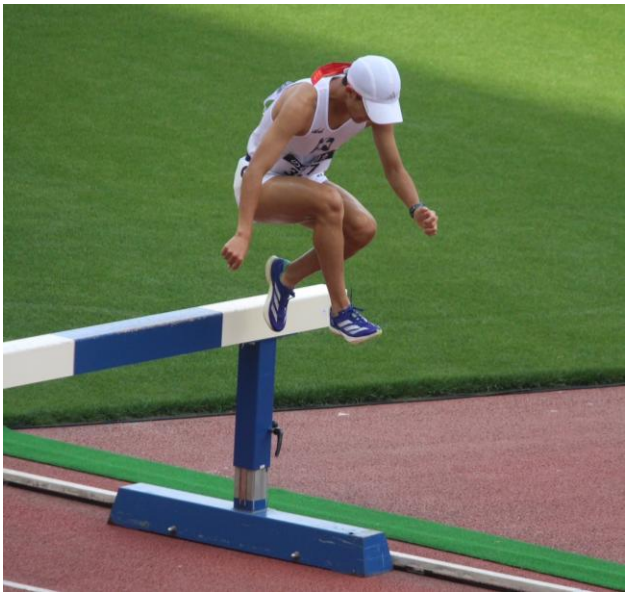
男子10000m

決勝
小野竜之介（2） DNS

男子3000mSC

決勝
小野竜之介（2） 2 着9’14”38

男子 3000mSC には小野(2)が出場した。事前ランキングでは京都産業大学の楽田、立命館大学の清水が頭一つ抜けていたが、小野は持ち前の走力、ハードリングで序盤から積極的に 2 人に食らいつき、1000m 付近では優勝は 3 名に絞られた。1500m で楽田に先行を許す苦しい展開となるが、残り 2 周で清水を突き放しにかかり、その後も粘りの走りを見せ、見事 2 位を勝ち取った。しかし、満足しないのが小野の真骨頂であり、来年の関西インカレでの優勝、全日本インカレ出場に期待がかかる。また、本人は既に一ヶ月後の伊勢予選を見据えている。長距離の期待の「ルーキー」から、期待の「エース」となった小野の今後の活躍が楽しみである。(白星)



着実に力を伸ばし、今後にも期待がかかる小野(2)

ハーフマラソン

決勝
原　圭佑（M2）　7 着　1°06’05
中村　洸文（6）　DNS
稲田　正裕（4）　DNS

ハーフマラソンには原(M2)が出場した。3 週間前に 20kmW に出場しており、疲労の抜けない中での連戦となった。次々に選手が脱落していくサバイバルレースとなったが、13km ほどまで集団でレースを進めた。そこからのペースアップには疲労の影響もあり対応できなかったものの、粘り強い走りで順位を死守し、見事入賞を果たした。(稲田)

女子 5000m

決勝
髙木こころ(2)　28 着 18’05”31

女子 5000m には高木(2)が出場した。全体としては先頭 3’20 前後で落ち着いてレースが進み、高木は集団後方で離されることなく淡々と着いていった。先頭集団が徐々に build-up していく中で集団がばらけ、高木はコンディション不良の影響もあり中盤以降は苦しい展開となった。しかし、厳しい体調の中でも、果敢に集団に食らいついていけたことは、地力が付いてきている証拠でもある。今後の飛躍と、来年のリベンジを期待したい。(中村洸)

～競歩～

男子10000mW

決勝
原圭佑(M2)　1着38’38”23　京大新・関西学生新
中村颯葉(3)　5 着 40’44”29
土田浩生(3)　8 着 43’22”45

男子 10000mW には原(M2)、土田(3)、中村(3)が出場した。
原はスタート直後から立命館大学の土屋とレースを引っ張り、中盤では土屋と離れ先頭を独走。関西学生記録、大会記録、京大記録、自己記録を更新し優勝を果たした。
中村はレース中盤、前方からこぼれてきた選手をしっかりと拾い、4 位に浮上。粘り強く食らいつくレース

を見せたが、最後のスパート勝負で惜しくも５位でゴール。それでも自己記録を更新し、成長を感じさせるレースであった。

土田は序盤から 7、8 位を争う展開。後続に詰められながらも持ち前の粘り強さを発揮し、最後まで位置をキープ。惜しくも 8 位でゴールし、順位こそ悔しい結果となったが、自己記録を更新し、今後への可能性が示されたレースとなった。

男子 10000mW では３名全員が自己記録を更新し、大量得点をもたらした。特に原の優勝はチームに大きな勢いを与え、中村・土田も粘りのレースで得点を積み上げ、チームを勢いづけた。（髙橋）

底知れぬ力で関西学生記録を更新した原（M2）

女子 10000mW

決勝
田口晴海（2）７着 48’53”76 京大新

女子 10000mW には田口（2）が出場した。
序盤から立命館が単独で飛び出し、田口は３位集団の後方からついて行く展開となった。その後集団が別れ、単独で 7 番手の位置についた。徐々にペースが落ちていったが、大きく崩れることもなく粘りの歩きを見せ 7 番手の位置を守り抜き、京大新記録を更新した。（髙山）

～跳躍～

男子走高跳

決勝
山中駿（M1） 1 位 2m13
田中颯真（4） 2 位 2m05
山口貴也（3） 6 位 2m00

男子走幅跳には山中（M1）、田中（4）、山口（3）が出場した。

事前ランキングトップの山中は、本調子とは言えない中でも危なげない跳躍で 2m05 をクリア。その後も集中力を切らさず、2m13 を 2 回目で成功させて見事に優勝を果たした。

田中は自己ベストとなる 2m05 を一発で成功させ、堂々の 2 位に。京大陣営を大いに盛り上げた。

山口も安定感のある跳躍で 2m00 をクリアし、2m05 には惜しくも届かなかったものの、今後の成長を期待させる内容でチームに貴重な得点をもたらした。

この種目で京大は大きく得点を重ね、チーム全体の士気を一層高める結果となった。エース山中の安定した強さに加え、田中・山口といった新たなエース候補の台頭が光り、今後のさらなる躍進を予感させる心強い内容となった。（西川）

大舞台で PB を更新し高得点を取った田中（4）

男子棒高跳

決勝
吉冨文暁(4) 19 位 3m80

男子棒高跳には吉冨(4)が出場した。午前中は雨が降り、気温も低く冷え込んでいたが、次第に天候が回復して気温が上がったことで、気温差により調整が難しい試合となった。吉冨は 3m80 から競技を開始し、1 本目を余裕をもってクリア。しかし 4m00 では 1、2 本目を失敗。3 本目は跳躍自体は成功したかに見えたが、ポールがバーに接触し、惜しくも赤旗となった。今回の悔しさを糧に、今後のさらなる成長を期待したい。(松本)

男子走幅跳

決勝
二村草輔(M1) 15 位 7m01
高橋昂生(4) 19 位 6m95

男子走幅跳には二村(M1)、高橋(4)が出場した。高橋は昨年準優勝で、今年もランキングトップで挑む試合であった。高橋は一本目は 6m95 を記録した。2 回目は足が攣りそうになったからか跳ばずに走り抜けた。3 本目はその影響でパスし、最終順位は 19 位と苦しい結果となった。

二村は 1 回目が 6m99、2 回目が 7m01 と記録できたが、3 回目は踏切板を越えて最終順位は 15 位となった。二村も事前ランキングが 6 位であったので、ランキングを大きく返される結果となった。(安藤)

男子三段跳

決勝
梶慎介(M2) 9 位 14m95
松井和輝(4) 13 位 14m62
齋藤啓(M2) 14 位 14m61

男子三段跳には、松井(4)、齋藤(M2)、梶(M2)が出場した。風向きのなかなか安定しないコンディションで、なんとしても決勝に残ることが求められる中、三名とも一本目から手拍子を使い、気合いを感じさせる跳躍を行った。

梶は一本目に 14m95 を跳んで上位につけ、齋藤も一本目に 14m61、松井はニ本目に追い風参考ながら自己記録を更新する 14m62 を跳んだ。しかし、三本目に他大学の選手が次々と 15m 台を記録する中、三名ともあと一歩記録を伸ばしきれずに予選敗退する、悔しい結果となった。(竹生)

～投擲～

女子砲丸投

決勝
篠田佳奈（M1） 9 位 11m14

女子砲丸投には篠田（M1）が出場した。雨でサークルが濡れており、強みであるスピードを活かしづらいコンディションであった。1 投目は足が滑りファールとなったが、2 投目・3 投目は修正して記録を伸ばした。惜しくも 9 位となり得点獲得とはならなかったが、事前ランキングやコンディションが厳しい中で健闘した。（小島）

女子やり投

篠田佳奈（M1） 1 位 56m57
亀井真希（京女3） DNS

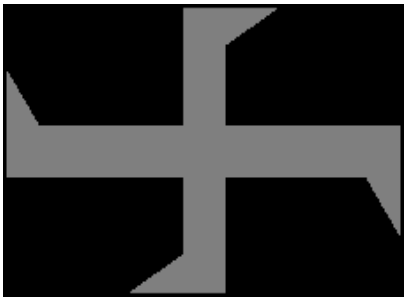
女子やり投には篠田（M1）が出場した。1 投目から徐々に記録を伸ばし、3 投目にサードベストとなる 56m57 をマーク。4 投目からは 60m 狙いにシフトした。残念ながら記録を伸ばすことはできなかったものの、見事関西インカレ 4 連覇を達成。圧倒的な強さを見せつけた。（小島）

確かな実力で見事 4 連覇を果たした篠田（M1）

④ その他ご報告

本年の関西インカレをご観戦いただいた OB,OG の方々の名簿を以下に掲載させていただきます。
この度は連休の中、遠方の会場にもかかわらずご観戦いただき誠にありがとうございます。
並びに、ご足労いただいたにもかかわらずお名前が掲載されていない方につきましては、この場を借りてお詫び申し上げます。

鯉谷忠夫 S41
藤原忠義 S41
森本正幸 S41
勝村弘也 S44
清原正義 S44
池本忠司 S49
桂総一郎 S51
宮下欣二 S51
眞野勝文 S53
三好稔彦 S54
北村公亮 S55
伊豆好弘 S56
浅野眞一郎 S57
熊谷元 S59
矢内純太 H2
杉本明洋 H16
岡本和晃 H28
谷口博紀 H31
澤田剛 R3
津吉順平 R3
中野水貴 R3
黒川泰暉 R4
鄭晟皓 R4
仲村快太 R4
鴛原泰輝 R5
川口修大 R5
小西菜月 R5
髙橋侃凱 R5
眞鍋聡志 R5
山口佐助 R5
小島美月 R6
角谷幸紀 R6
柴田栗佑 R6
宮園隼人 R6
安本元虎 R6
紀之定玲司 R7
新保歩 R7
周藤紗季 R7
服部航大 R7
中芝美玖 R7
深井颯一郎 R7
益田椋多 R7
三嶋友貴 R7
亘鍋早希 R7
（敬称略）



蒼穹ニュース　令和7年度　第2号
令和7年5月15日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：庄田隆人（蒼穹ニュース担当副務）
写真担当：中尾亮介・中澤ひなた・中田晴斗（写真係）

陸上競技部 HP　http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP　https://www.athletics.kusu.kyotou.ac.jp/record/index.html
関西学連 HP　https://gold.jaic.org/icaak/index.html
メールアドレス　shoda.ryuto.87z@st.kyoto-u.ac.jp（庄田）